

# 木製ベンチ

## 屋内外木部

木部保護着色塗料を使った塗り替え

木にしみ込み、木目を活かす仕上がりに

ツヤを出し、耐久性を持たせたい場合に

劣化・汚れが進行している場合には塗りつぶしのタイプ



水性アトム自然カラー



ステイン仕上げ



アトム木の保護コート



ニス仕上げ

フリーコート



ペイント仕上げ

人が触れるベンチには安全生の高い塗料を使いましょう

### スケジュールを決めましょう

ベンチ<高さ97cm×幅1m22cm×奥行51cm>の場合

工程	使用材料	塗布量(L/m <sup>2</sup> )	塗り重ね可能時間(夏期)	理想の人数と時間
洗浄	※洗浄は前日までに行っておきましょう。			1人 10分
サンディング	サンドペーパー	#180~#240(削る) #240~#320(整える)		1人 30分
マスキング	マスキングテープ			1人 5分
上塗り1回	水性アトム自然カラー	0.1	30分以上*	1人 30分
上塗り2回	水性アトム自然カラー	0.1		1人 30分

\*ワイピングで仕上げた場合の塗り重ね間隔です。ワイピング仕上げの方法は3ページ目をご覧ください。

### <塗料と養生用品の必要量>

木部保護着色剤(水性アトム自然カラー)で、  
<高さ97cm×幅1m22cm×奥行51cm>  
のベンチを塗る場合

塗装面積  
約1.4m<sup>2</sup>

●水性アトム  
自然カラー  
0.7L:1缶



●マスキングテープ  
18m巻:1巻



\*木部保護着色塗料は、木の種類や状態により吸い込み具合が異なります。吸い込みが激しい場合がありますので塗装中、足りなくならないように少し余分に用意しておいたほうがよいでしょう。

### 作業人数の目安 1人



#### 作業人数の目安とは

その作業の難易度、作業性に相当する理想的な人数の目安です。例えば2人で行う作業を3人で行った場合、より効率的に進められるといえます。



汚れてもよい  
服装で作業を  
しましょう

\*手袋の着用も  
忘れずに..



塗装は気温の低い  
日を選び、好天の  
日に行ってください。

雨の日(雨が降りそうな時)や気温5℃  
以下、湿度80%以上の時の塗装は避け  
てください。

#### <水性アトム自然カラー>の 標準塗り面積

(2回塗りの場合)

容量	m <sup>2</sup>	タタミ(枚)
200ml	1.4~2.3	約1
0.7L	5~8	約4
1.6L	11~18	約9

#### <木の保護コート>の標準塗り面積

(2回塗りの場合)

容量	m <sup>2</sup>	タタミ(枚)
0.7L	約7	約4
1.6L	約16	約9

#### <フリーコート>の標準塗り面積

(1回塗りの場合)

容量	m <sup>2</sup>	タタミ(枚)
200ml	約2	約1.3
0.7L	5~7	約4
1.6L	10~15	約8
3L	19~28	約14
7L	50~70	約40
14L	100~140	約80

## 使用する道具

☑ 買い忘れがないかチェックを! 塗装用具は作業する人数分用意しましょう。作業効率もあがります

### 塗装用具

木部着色剤用か  
万能用を選び  
ください



□ ハケ(本)

●木部着色剤用ハケは  
毛が太く弾力性があり、  
木部保護着色塗料の  
塗装に最適です。

□ ベンダー



ハケが入らない狭い  
隙間の塗装に適して  
います。柄の部分  
を折り曲げられ角度が  
つけられます。



ローラーバケ  
を使用する場合は  
塗り皿やバケッ  
トが必要です

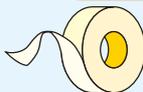
□ ローラーバケ  
塗り皿(個)

□ かくはん棒



### 養生

塗料のはみ出しを防ぐ  
ために使います。



□ マスキング  
テープ  
( )巻き

マスキングテープとポリ  
シートが一体となっており  
広範囲を保護できます



[新聞紙]



□ マスキング  
( )巻き

□ ポリシート  
( 枚)

### 清掃・サンディング

表面を滑らかにし、浸透  
性を高める目的で使います

表面が平らな面をサンドペ  
ーパーがけする場合はサン  
ディングブロックが便利です



□ サンドペ  
ーパー  
( 枚)



□ 雑巾・ウエス



□ 皮スキ

□ ワイヤブラシ



□ 手袋  
( 双)

# ① 下地処理



●洗淨  
泥や苔などの汚れがある場合は、水洗いをして出来るだけ取り除きます。  
水洗いをした後は、1日以上乾燥させてください。



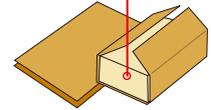
<ヤニによるベタつきがある場合の対処>  
未塗装の木は、種類や材質によって異なりますが、表面にヤニが浮き出てベタつくことがあります。そんなときは、ラッカーうすめ液を使ってヤニを拭き取ってください。

## ●サンドペーパーをかける



全体を#240~320程度のサンドペーパーを使って研磨していきましょう。サンドペーパーがけは、力を入れすぎるとキズがつきやすく、均等な仕上がりになりにくいので、「削る」というよりは「整える」という感覚でおこなってください。  
表面を、木目に沿って研磨する事が基本です。また、平らな面の場合にはサンディングブロックを使いましょう。小さなストロークで一定の力をかけ、全体をまんべんなく整えていきましょう。表面が激しく劣化している場合は、予め目の粗い#180程度のサンドペーパーで削りとりましょう。

\*サンドペーパーがけをして出たカス(粉)は、雑巾やウエスできれいに拭き取りましょう。



木部保護着色塗料の  
浸透性を高める

ケバ立ちを取り除き  
表面を滑らかにする

## ●木に浸透させるタイプの木部保護着色は、塗料やニス、ワックスでコーティングされている面には塗れません。



木部保護着色塗料で塗り替えたい場合は、既に塗られているものをサンドペーパーで完全に取除いてください。  
もともと塗ってあるものが木部保護着色塗料で、水が吸い込む状態であれば、軽くサンドペーパーをかけるだけで取り除かずに塗装できます。



最初は粗めの#120~180程度のサンドペーパーで荒削りして、最後に#320程度のサンドペーパーで表面を滑らかにします。

# ② はみ出しや汚れを防ぐ為の処理 マスキング(養生)



塗りたくない部分や塗料が付着すると困る部分には、必ずマスキングテープを貼ってください。マスキングテープを貼る時は、きわの部分をしっかり押えてください。ただし、アトム自然カラーは木部にしみ込ませるタイプなので、マスキングテープの端からにじんでしまいきれいに仕上がらないことがあります。



床面には、ポリシートやブルーシート等を敷き保護すると塗装時の汚れが防げます。

# ③ 塗料をかき混ぜる

●塗料は中身をよくかき混ぜてからご使用ください  
フタを開ける前に容器をよく振り、フタに手をそえてマイナスドライバー等で開け、ヘラなどで底にドロツとした固まりがなくなるまで充分にかき混ぜてください。汚れることがありますので新聞紙やポリシートの上で行ってください。



⚠ \*フタを開ける際に塗料が飛び散ることがあります。ポロ布をかぶせてからフタを開けるなどご注意ください。



## ●木の傷みが激しい場合には塗りつぶしのペイントタイプをおすすめします

屋外にさらされている木は年月が経つと色があせ、さらに劣化が進行すると木そのものが黒ずみ、腐食していきます。劣化が進行しすぎると、ステインタイプでは黒ずんで傷んだ表面を再生できない場合があります。そのような場合は、木目を隠す仕上がりのペイントで塗り替えをおすすめいたします。

木目を活かす仕上がり  
ステインタイプ

木目を隠す仕上がり  
ペイントタイプ



<フリーコート>は、落ち着いた3分つやで、木目が隠れるペイントタイプです。ガーデン資材、板べい、濡れ縁など屋外木部全般におすすめいたします。

水性  
フリーコート

容量:200ml・0.7L・1.6L・3L・7L・14L  
塗り回数:1回



木目を隠す仕上がり



## ④ 塗る

塗る面を完全に乾燥させてください

●上から塗っていきましょう

ベンチ



### 1. 天面の塗装

タシないように注意しながら板の幅に合わせ、ハケの角度を調整しながら塗り進めましょう。



### 4. 板の隙間の塗装

狭い隙間は、ハケを寝かせて毛先を入れて塗ってください。隙間がせまく入らない場合は毛先の厚みがうすいハケで塗ってください。



### 2. 表面[背板・座板]の塗装

木目に沿って塗り広げましょう。比較的面積が広いのでハケに塗料を多めに含ませ、しみ込ませるように塗ってください。



### 5. 裏面の塗装

表面と同様に塗ってください。表面を塗った後で裏面にタレてしまっていた場合は、布で拭き取ってから塗りましょう。



### 3. 木口の塗装

他の面と比べ雨が木の内部にしみ込みやすく、痛みの原因になってしまうので、たっぷりしみ込ませるように塗って保護してください。



4時間後(冬期は6時間後)

### 6. 2回目の塗装(全面)

塗る面が完全に乾いていることを確かめてから、2回目の塗装をおこなってください。1回目の塗装をしたことでしみ込む量が少なくなりますので、厚塗りに注意してください。

## 万能台

小さなサイズの万能台は、先に塗りにくい裏面を塗るのが一般的です。ただし未塗装の木板はタレると跡になりやすいので天面にタレないように注意しましょう。



裏面塗装



表面塗装



ワイピング

詳細下記参照



人が触れるイスやテーブルをご使用になる場合のご注意

水性アトム自然カラーは、完全乾燥後(約24時間後)ご使用いただけますが、気温や湿度によっては完全乾燥にさらに時間がかかる場合がございますので、**人が座った際に衣服が触れる背もたれや座面等の部分については、表面を入念に拭き取ってからご使用ください。**



## <木目を際立たせたい場合には>

水性アトム自然カラーは、もともと木目を活かした半透明の仕上がりになりますが、ワイピング(拭き取る)することで、より木目をはっきり際立たせた仕上がりにすることができます。



◀ワイピング後

◀ワイピング前

吸い込みが少ない木にワイピングする場合

水性アトム自然カラーは、木に浸透させる塗料なので吸い込みが少ない木に塗り、ワイピング(拭き取り)をしてしまうと色がうすくなりすぎてしまいます。吸い込みが少ない木に塗る場合は、塗ったあとのワイピング(拭き取り)の間隔を通常の10分から20~30分に増やして浸透させる時間をとってください。また2回塗りをしてもうすいと感じる場合は、さらに塗り重ねをすれば色は濃くなります。

### ワイピングの方法

塗装終了後10分程おいてからウエス(綿素材の柔らかい布が良い)で表面のしみ込み切らなかった余分な塗料を拭き取ってください。塗り重ねることに同様の作業をおこないます。



## ●色を濃くしたい場合は、塗り重ねましょう

木部にしみ込ませるタイプの木部保護ステインは、塗り重ねる毎に色が濃くなります。＜水性アトム自然カラー＞は通常2回塗りですが、色を濃くしたい場合は3～4回塗り重ねてください。



1回目の塗装



2回目の塗装



3回目の塗装

## ●つやを出したい場合は、アトム木の保護コートをおすすめします

木部保着色塗料はニスの上塗りの必要性はありませんが、光沢のある仕上がりをお望みの場合は、＜アトム木の保護コート＞の上塗りをおすすめします。＜アトム木の保護コート＞は、厚膜タイプの透明ニスで日光や雨に強く、木部の耐久性を高めます。また、植物油を原料としているニスで安全性も高いので、人が触れるベンチなどにもおすすめです。



### 油性 アトム木の保護コート

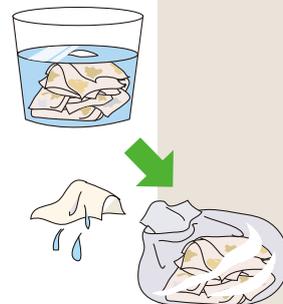
容量:0.7L・1.6L  
塗り回数:2回



## ! 使用したウエスは水に浸してください

### ＜自然発火の注意と防止＞

植物油原料を主成分とし、溶剤が揮発した後に空気中の酸素と化学反応を起こして乾燥するタイプの＜水性アトム自然カラー＞や＜アトム木の保護コート＞は、塗料を拭き取ったりワイピングなどで使用した塗料の付着したウエス(布)や古新聞等を放置しておきますと、ごく稀に自然発火をおこす恐れがあります(塗料自体が自然発火することはありません)。使用したウエス(布)や古新聞は必ず、放置せずに水に浸して処理してください。



## ⑤ あとしまつ

### ＜マスキングテープをはがす＞

マスキングテープは、乾く前にはがしてください。床面に敷いた新聞紙等は汚れている面を内側にして丸めて捨てると周りを汚さずに処理できます。



\*塗装用具を洗浄する際は必ずゴム手袋をしてください

### ＜用具の手入れ＞

ハケに残った塗料を古新聞やボロ布で落とし、乾く前にせっけん水で洗い、陰干ししてください。

ハケの手入れは乾燥する前に行ってください。乾燥するとハケの毛が固まって使用できなくなってしまう。

完成

塗装前



塗装後



塗り終わってからも、完全に乾燥するまで触れないようにしましょう。

\*この写真はマスキングテープをはがす前の写真です。

アトムサポート株式会社

本社 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6  
URL <http://www.atom-paint.co.jp>

お客様相談室

TEL 03-3969-7866

ホームページ  
はこちらから